

当報告の内容は著者の著作物です。

Copyrighted materials of the author

第1回（通算第14回）基幹研究「人類学におけるマイクロ-マクロ系の連関」公開セミナー

平成24年6月28日（木）15:00-19:00 AA研306号室

越境とシティズンシップ：パレスチナ人の移動とアイデンティティ形成
« Mobilité transfrontière et citoyenneté : le déplacement des Palestiniens et la formation
d'une identité palestinienne »

錦田愛子（AA研）

1948年のイスラエル建国以来、土地を奪われたパレスチナ人は難民または移民として国境を越え、世界各地に離散してきた。彼らの多くは居住国において、なんらかの居住資格を得ているが、必ずしも十分なシティズンシップを認められているわけではない。国籍の取得を原則として認めないアラブ諸国をはじめ、居住国では多くの権利が制限されたままである。こうした状況において、パレスチナ人は現在、どのようなアイデンティティを抱き、親族やコミュニティとの間の関係を構築しているのか。本報告ではこの点について、報告者が2003年以降、継続的に実施してきたヨルダンでのフィールドワークに基づき検証した。

難民となったパレスチナ人の法的地位については、1950年代以降アラブ諸国を中心にさまざまな取り決めがなされてきた。アラブ連盟は1954年の決議で、パレスチナ難民に対する一時旅券の発行を決定し、1965年にはカサブランカ議定書により、各国政府が国内のパレスチナ人に対して、労働の権利、出入国の自由を含めた必要な措置をとる旨、批准国の間で合意が交わされた。だが一方で、アラブ諸国における国籍の二重取得は禁止されているうえ、パレスチナ人に対して国籍を付与する国はごく少数である。各国は、国内居住者に対するシティズンシップを階層化して認める政策をとっているといえる。

ヨルダン・ハーシム王国は、その中でも例外的に、自国内に居住するパレスチナ人に対して国籍を認める国だ。その背景には西岸地区に対する国王の領土的野心や、人口の過半数がパレスチナ系という実情がある。報告者はこうした特殊な状態におかれたヨルダンに注目することで、離散後60年以上が経過したパレスチナ難民のナショナル・アイデンティティおよびホスト国との関係の解明を試みた。

ヨルダンのパレスチナ人は、その大半が首都アンマンに住む。社会・経済階層は多岐に分かれ、政治家を輩出する名望家を含めた富裕層から、難民キャンプ在住の貧困層までいる。報告者はそのそれぞれを対象に、いくつかの家族に焦点を当てて聞き取り調査を実施した。調査を通して明らかとなったのは、個人のレベルと集団のレベルでアイデンティ

ティの構築に影響を与えるいくつかの要素の存在である。

個人のレベルで重要と考えられるのは、いずれの階層においても観察される、社会的親族ネットワークの強さである。交流の保たれるネットワークの広がりや相互訪問の頻度には、個人や階層によって差があるものの、冠婚葬祭などの節目行事等の際には、国境を超えた移動が活発に行われる。ひとりの移動は次の人の移動を導くという連鎖反応のもととなり、反復される移動は、人々に出自の地であるパレスチナとのつながりを想起させる。移動はディアスポラのパレスチナ人にとって、「長距離ナショナリズム」を強化する方向で作用しているといえる。

集団のレベルで重要と考えられるのは、パレスチナ人の間で共有されるアイデンティティ確認のための記号や組織、集団の存在である。1948年戦争（第一次中東戦争）の際の離散の記憶や、伝統刺繍などの工芸技術は、ローカルNGOや研究組織、個人によって保存の努力がなされる共有された記号である。これらは人々の語りや実践、報道メディアなどを通して反復されることで、強い共同体意識を人々に呼び起こす。離散先の地で形成される同じ村の出身者による同郷集団・同興組織も同じ役割を果たす。これらは離散先での社会的・経済的に不利な立場を克服する手段であると同時に、同村出身者としてのアイデンティティを再確認することのできる、擬似的に創出された故郷として機能している。

他方でヨルダン側からは、パレスチナ人は自国民を構成する一要素として条件付きで受容されており、パレスチナ・アイデンティティの表出が公認されているわけではない。その意味では、パレスチナ人はヨルダン国内でトランス・ヨルダン人に準じる立場の者として、そのシティズンシップを容認されていると考えることができる。シティズンシップの階層化は、異なるナショナル・アイデンティティの保持を認める契機となり、パレスチナ人の長期化した難民という不安定な立場を支えていると考えられるのである。